

Top Message

株主の皆様へ

各事業の堅調な進捗を踏まえ、
2022年度通期業績見通しを
上方修正するとともに、
株主還元も拡充しました

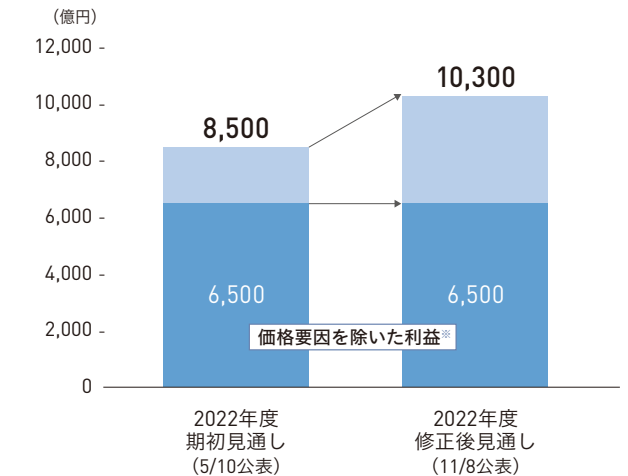
業績

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2022年度第2四半期の三菱商事グループの連結純利益は7,200億円となり、前年同期比で3,594億円増益となりました。金属資源に加え、不動産運用会社の売却益を計上した複合都市開発、自動車・モビリティ、総合素材、石油・化学ソリューションなどのセグメントが堅調に推移したことが主な要因です。変化の激しい環境においても市況の追い風を捉えて着実に利益を伸ばすとともに、循環型成長モデルの実践によるキャピタルゲインも計上するなど、当社の強みを発揮できたことが増益につながったと考えています。

2022年度の通期業績見通し

2022年度の業績見通しは、本年5月公表の期初見通し8,500億円から10,300億円に上方修正しました。2022年度後半は世界経済の減速などにより、今まで以上に厳しい事業環境となることが想定されるため、相応の下振れリスクも織り込むとともに、「中期経営戦略2024」でお示した「価格要因を除いた利益」の見通しは、期初の6,500億円を据え置いています。

●通期業績見通し

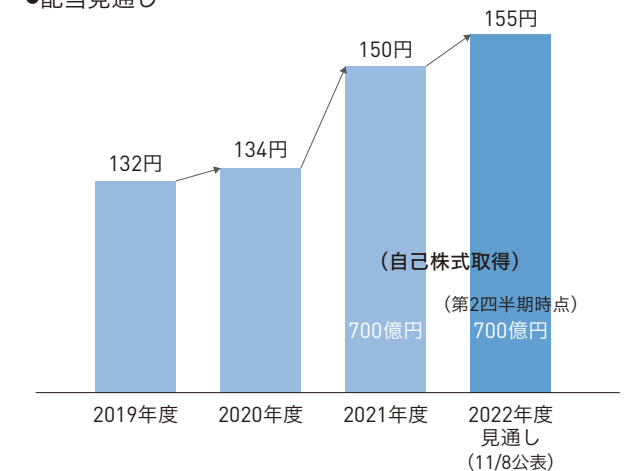


※資源価格(原料炭、銅、鉄鉱石、原油、ガス、LNG)を調整

2022年度の配当見通し

2022年度の配当見通しについても、累進配当制の下で、将来の持続的な利益の成長期待なども踏まえ、本年5月公表の期初見通し150円から5円引き上げ、1株当たり155円としました。加えて、700億円を上限とする自己株式の取得を決定いたしました。追加還元幅については、30～40%程度の総還元性向を目処に、2022年度後半にかけて検討していきます。

●配当見通し



EX・DXの 一体推進による未来創造

本年5月に公表した「中期経営戦略2024」では、EX戦略、DX戦略、未来創造という成長戦略を掲げました。

中期経営戦略2024の 実現に向けて

EX関連の取り組みの一つとして、2018年から開発を進めてきたペルーでのケジャベコ銅鉱山プロジェクトが今夏、生産を開始しました。銅は、電化の進展やEVの普及などに不可欠な資源であり、今後も銅資源の確保と安定供給を通じ、カーボンニュートラル社会の実現に取り組んでいきます。

DXについては、「中期経営戦略2024」で掲げた通り、DX戦略の推進組織として、7月に150人規模となる産業DX部門を新設しま

した。当社の有する多様な事業とDXを掛け合わせることで、リアルとデジタルの融合による新たな事業機会創出への取り組みを加速させています。

未来創造については、EXとDXを一体で推進するコミュニティ創生に取り組んでおり、2022年度前半では複数の自治体との地域振興に関する連携協定の締結、また新規の国内支店開設など、その動きを加速させております。

MC Shared Value（共創価値）の 創出へ

日本経済は約30年間GDPが伸びておらず、成長が低迷しています。平和を前提としたグローバル化の下、本邦企業の海外へ

の生産拠点進出が進み、以降、海外収益が毎年日本に還流されてはいるものの、国内での投資意欲が低迷、国内における設備投資にうまくつながっていないことも一因と捉えています。日本は将来どうあるべきなのかを考え、日本の産業競争力の復活を目指すのであれば、自給率アップを含めたエネルギー問題への対応と併せて、EX・DXを通じて、

国内産業の新陳代謝や地域における産業育成という地域創生に取り組むことが重要だと認識しています。

当社は今後も「中期経営戦略2024」で掲げた成長戦略を着実に実行し、社会課題の解決を通じて、MC Shared Value（共創価値）の創出を進めていきます。



2022年11月
代表取締役 社長

中西 勝也